

念田川を改修するよう求める陳情

【願意】

海老川上流地区土地区画整理事業と、事業地周辺の埋め立て（遊水地の消失）により、市管理河川の念田川が溢れるリスクが高まっています。しかし下水道河川整備課に確認したところ、改修の予定は全くないと言います。

市民の命と財産を守るために、念田川を排水能力の高い川に改修するよう市に求めているため、お願いいたします。

【理由】

① そもそも溢れやすい川である

念田川は大変細い川で、これまでにちょっとした大雨でしばしば溢れてきました。当会の調査では 2023～2024 年の 2 年間だけで 3 回溢れており、1 時間最大雨量 17～27 mm、累加雨量 49～97 mm 程度の雨で溢れています。

資料 1 は昨年 9 月 8 日の台風 13 号の時のものです。この日の午前中は船橋に強い雨が降りましたが、市内に大きな被害は出ませんでした。しかし念田川は持ちこたえられずに溢れたことがわかります。

② 大雨の時は宮前川から大量の水が噴き出す

宮前川は事業で幅 2m、高さ 1.5m の四角い管状の川（暗渠）に生まれ変わりますが、受ける念田川の幅はわずか 6.8m、深さは 2m 強。大雨のとき噴き出す宮前川の水の破壊力はすさまじく、向かいの堤防にダメージを与える恐れがあります。

河川技術者に確認したところ、「そうならないために、受けるほうの川幅を広げるなどして、水の勢いを弱めるのがセオリーです」との説明を受けました。資料 2 は海老川と飯山満川の合流点と念田川の現状を比較したのですが、念

田川の川幅 6.8mに比べ、海老川は 13m も幅をとっていることがわかります。

川の排水能力からみても、1 時間約 20 mmの雨量を安全に流せる程度の念田川に、1 時間最大 50 mmの雨量を流せる大容量の川になった宮前川が合流すれば、念田川が溢れてしまうのはご想像いただけたと思います。

「細い川に太い川をつなぐと大雨の時は溢れてしまう。だからまず細い川の排水能力を高める工事をしてから太い川をつなぎます」と、やはり河川技術者から説明を受けました。

③ 宅地化により、遊水地が減少

今上流地区周辺はどんどん宅地化し、溢れた水を溜めて川の増水を防いできた遊水地が失われています（資料 3）。言い換えれば溢れる場を失った水で念田川が膨れ上がり、洪水の頻度や規模が増してしまうのです。この、行き場を失った水をきちんと川の中におさめて流す工事（排水能力を高める工事）が必要です。

添付資料

1. 念田川溢水の例
2. 川の合流点比較。今のままでは大雨のとき、念田川はもたない恐れ
3. 宅地化により遊水地を失い、溢れやすくなった念田川